

# チロンヌカムイ イオマンテ

日川善次郎エカシの伝承による

キツネの神が明日は  
cironnup kamuy nisatta anak  
神の国 神の元へ 行くので  
kamuy mosir kamuy or ta arpa kusu  
歩みの先 歩みの上を  
arpa etok arpa kurkasi  
神々よよく見守って いただいて  
kamuy utari u pirka nukar  
an=ki pa ki wa

踊りとともに ウポポとともに  
rimse turano upopo tura  
祀りを執り行うので 神々よ なにとぞ  
a=ki pa kusu kamuy utari  
u nenpokayki

愛しいキタキツネを、  
アイヌ民族の知られざる祭祀  
一九八六年カメラはすべてを撮っていた

ちちはは

父母の国へ送る

CIRONNUP KAMUY IOMANTE



北村皆雄監督最新作

『チロンヌカムイ イオマンテ』(1986年撮影 / 2021年制作 / 105分 / カラー / 16:9 / DCP・Blu-ray)

語り：豊川容子 / 音楽：豊川容子+nin cup / 制作：三浦庸子 / 監修・カムイノミ対語訳：中川裕(千葉大学名誉教授、『ゴールデンカムイ』アイヌ語監修) / 司祭者：日川善次郎エカシ / 企画・スチル：堤大司郎

製作・配給：**ヴィジュアルフォークロア**

文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業 **AFF**  
ARTS for the future

  @iomantefilm  
WEB: iomantefilm.com



# まぼろしの祭祀を映した映像が 35年ぶりによみがえる

私は、肉をふさふさの毛皮で覆って、  
また人間の国を楽しみに訪ねるでしょう。



## 解説

### アイヌの幻の祭り

1986年、北海道屈斜路湖を臨む美幌峠で、大正時代から75年ぶりに「キタキツネのイオマンテ（霊送り）」が行われた。わが子と同じように育てたキタキツネを、神の国へ送り返す。

### ウポポ（歌）と

### リムセ（踊り）の原点

靈魂を神の国へ導く時がくる。イオマンテでは、一言一句に魂を込めカムイノミ（神への祈り）を唱え、ウポポとリムセが捧げられる。アイヌの歌と踊りの原点がここにある。

### 不世出の伝承者・日川エカシ

祭祀を司るのは、明治44年生まれの日川善次郎エカシ（当時75歳）。祈りの言葉を間違えれば神の怒りをかうという大役である。神の国へ戻ったチロンヌカムイは、人間の国で歓迎されたようすをみんなに聞かせ、うらやましがられる。仲間たちは、肉と毛皮をみやげにして、人間の国を訪ねたいと願うのだ。

### 人気漫画『ゴールデンカムイ』の

### 監修者・中川裕が全訳、監修

日川エカシの祈りのすべてをアイヌ語に書き起こし、現代日本語訳で甦らせた。映画は、1986年に撮影したものをレストア（補修）し、35年ぶりに作品に仕上げた。北村皆雄監督は「民俗の記録は古いほど原型が残っている。時間の奥に眠っていたアイヌの世界観を現在に引き出した」と語る。

## コメント

私が子供の頃、狐を見たことがなかった。戦後暫くしてから、獲り尽くされていた狐や鹿が姿を現したこの世界は、なんと神秘的に映ったことか。私たちはすべての生き物と共に生きている。伝統に則り祭祀を執り行うアイヌを誇りに思う。日川エカシの言葉は、生き物すべてに畏敬の念を持っていたことの表れ。この映像はアイヌの生活・風習・儀式に関する永久に残すべき遺産。

宇梶静江（アイヌ伝統かたりべ・古布絵作家・詩人）

動物を我が子のように育て、それを屠って魂をカムイの世界にいる両親の元に送り返す。そのことの意味を十分に理解していた人たちが大勢いた時代の記録。35年前に行われたアイヌの「狐送り」の映像が今公開される。アイヌの精神文化・世界観を学ぶまたとない教科書であり、アイヌ文化を未来につなぐための貴重な遺産である。

中川裕（『ゴールデンカムイ』アイヌ語監修）

私たちは生きているだけで、想像しきれないほどたくさんの動物の死骸の上に立っている。

自然との共生が謳われる今、自らの命を肯定しながら、自らの残酷さどう折り合いをつけたらいいのだろう。

アイヌの人々の築いた信仰が、その一つの答えとして、生々しく身体的に、35年の時を経て現代の私たちに、同じ問いを投げかけてくる。

コムアイ（アーティスト）

## 紹介

司祭者：日川 善次郎

1911年生まれ。日高・沙流川地方の出身で、不世出のアイヌ神事の伝承者として知られ、道内各地の儀式で司祭を務めた。1990年に79歳で逝去。妻キヨもアイヌ歌謡とムックリ（口琴）の名手であった。

監督：北村 皆雄

1942年長野県生まれ。ドキュメンタリー映画監督。1960年代より、アジアや沖縄・日本各地をフィールドに、映像人類学・民俗学を掲げ百を超える映画・テレビ番組を撮り続けてきた。代表作に『カベルの馬』（1969年）、『アカマタの歌』（1973年）、『見世物小屋』（1997年）、『ほかいびと』（2011年）、『冥界婚』（2016年）など。

## クレジット

監督：北村 皆雄／語り：豊川 容子／音楽：豊川容子+nin cup／監修・カムイノミ対語訳：中川 裕／企画・スチル：堤 大司郎／制作：三浦 庸子／撮影：柳瀬 裕史・森 照通・明石 太郎／撮影協力：田中 基／編集：北村 皆雄・門馬 一平／音響・整音：齋藤 恒夫／レストア：大山 祐太郎／ポストプロ技術：浜田 亮／ポストプロ進行：遠藤 協／ポストプロデスク：渡邊 有子／宣伝美術：岩田 和憲／宣伝協力：スリーピン

Special thanks：日川 善次郎・弟子 豊治・萱野 茂

文化庁「ARTS for the future」補助対象事業 **ARTS** ARTS for the future

製作・配給：**ヴィジュアルフォークロア**

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-12-12

オスカカテリーナビル 3F

TEL：03-3352-2291 E-Mail：info@vfo.co.jp



22032-A



# ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK

## 上映期間

## 2023年5月13日(土)～6月30日(金)